

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の運営方針や理念には地域との交流や個人の尊重が謳われ、理念をもとにしたキャッチコピーが作成してある。	○	地域密着型サービス以前のキャッチコピーなので作り変えたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については会議等で理解と周知徹底を図っている。キャッチコピーを見やすい場所に掲示し職員は同じ認識のもと業務を推行している。		
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月ホーム便りを発行し、家族や病院等関連施設に配布している。施設見学時にはパンフレットを配布し理解してもらえよう詳しく説明している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	施設は民家から離れた場所にあり、日常的に立ち寄ることはないが、併設する老健の通所利用者が頻りに寄ってくれている。事業所は地区町会に加入し、清掃活動等に参加している。また、町会を通じて行事や交流できる場がないか話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を職員全員で把握し、改善に向けて取り組みサービスの質の向上に努めている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでの評価結果の報告や改善の取り組みについての意見をもらったり、課題をあげてもらいサービスの質の確保を図っている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では協議の場は設けられていない。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてはセミナー等に参加し必要な利用者に対応できるようにしている。地域権利擁護事業は平成17年から入居者の一人が福祉サービスを利用している。	○ 職員全員が、制度と事業について理解するよう、今後も勉強会や研修参加をふやしていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については、会議やミーティングで法令を読み、虐待の定義と通報の義務があることを職員は周知している。	○ 虐待行為の早期発見と対応方法について周知徹底するよう取組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者、家族に対し入退所の規則や提供するサービスの説明、ホームでできること家族に協力してもらうことなど話し合い納得、同意を得てから入居、サービスの提供を開始している。利用者の状態変化により契約解除に至る場合も本人、家族と対応方針を相談している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者も出席し意見、不満、苦情を聞いている。また、個々の利用者の話しに耳を傾け認知症の利用者であっても意見、思いが言えるよう配慮している。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族面会時に利用者の状態を必ず伝えるようにしている。また、面会にこれない家族もあり、毎月、個人別に心身の状態や日常生活状況を文書で報告している。金銭管理は出納簿を作成し定期的に報告している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情には受付箱を設置している。運営推進会議に家族も出席し意見、不満、苦情がないか聞いている。また、運営推進会議以外にも外部者へ表せる機会や場があることを説明している。担当者は苦情等に対し迅速に対応しサービス向上に反映させている。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング時に職員の要望や意見を聞くよう努めているが把握しきれないことも考えられる。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は状況に応じた対応ができるよう通常のシフトに入れておらず、夜間急変時等利用者の状態変化に対応できる体制をとっている。また、都度必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットで固定しているが、ユニット間での移動の際も頻繁に顔を見せ利用者のダメージが少なくなるよう配慮している。異動や退職時は、引き継ぎがスムーズに行くよう努力している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修には参加してもらい、報告書を作成し、ミーティング、会議時に全職員に浸透するようしている。OJTも工夫していきたい。		
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	青森県グループホーム協会に加入しており、研修等に参加し交流を図ったり情報交換に努めている。	○	研修以外でも、他法人の同業者と交流し連携を図るための機会をもつよう取り組んでいきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室があり気分転換、息抜きできる場所を確保してある。	○	職員のバーンアウトを防ぐために他事業所や、地域関係者と交流を図って、職員自身がストレスを軽減できる機会を拡げていきたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が向上心を持ちレベルアップできるよう資格取得の支援を行い、能力を活かせるよう職能評価している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	思いや不安をよく聴き、本人と家族の状況を理解し、安心して職員が受け入れてもらえるような信頼関係をつくるよう努めている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の立場にたった視点で考え、速に必要な支援やサービス提供を行うとともに、場合によっては他のサービス機関の利用も含めた対応をしている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人の了解を得たうえでサービスの利用を開始している。また、安定するまで関わる時間を多く取り、家族にも面会を多くしてもらうなど協力してもらい、安心して生活できるような環境作りに努めている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や調理など利用者から教えてもらいお互いが協同して一緒に生活するよう心がけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況報告とともに本人の情報を家族から教えてもらったり、行事参加をお願いして、事業所と家族の両方で協力し支援できるようにしている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係を見極め、利用者によっては外出、外泊など勧め家族と一緒に過ごせる機会を設けたり、疎遠な家族にも近況や状況報告し、電話での会話を協力してもらうなど両者の関係が途切れないよう配慮している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院、病院やデパート等できるだけ利用者の希望を聴き、社会や人との交流が継続できるよう支援をしている。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間関係を理解し、同じ趣味の利用者で一緒の場面をつくり関係を深めたり、職員が間に入り利用者間のコミュニケーションを図りトラブル防止するようにしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同じ法人内の事業所へ移った利用者は、相互に行き来し交流している。また、退所後の状況を把握するよう努め継続的に関わるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の言動や表情から意向や思いをくみ取り把握に努めている。困難な場合は家族や、関係者から情報を得て本人の視点にたった支援を話し合っている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報に充分配慮し、利用者から生活歴や生活環境を聴いたり、家族からも暮らしぶりなどこまめに聴き把握につとめている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントを重視し生活習慣や精神面を理解し、できることや支援が必要なことを把握している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見や要望を聞き、アセスメントを含め職員全員で話し合い、意見交換し介護計画を作成しチームケアを図っている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化に応じて随時見直し、また、予防や効果に配慮した計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子や気づきはカルテに詳しく記入するようにしている。情報共有が必要なことを職員は理解し介護計画に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院、送迎、買い物等必要な支援は個別に援助している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防等は定期的に訓練や講習を行い協力してもらっている。近隣の小、中学校の社会見学やボランティアの交流もあり協力を働きかけている。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要があれば利用するが現在はしていない。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターは平成19年4月からの運営開始で、協働はしていない。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族同行の受診となっているが、不可能なときは職員が代行し、本人や家族の希望に応じた医療機関への受診や通院等できるよう対応している。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院には介護療養型病床があり認知症に詳しい医師が随時相談に応じてくれる体制ができている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じられる体制ができている。また、介護職員と協力病院の看護師との連携も密にとれる体制が確保されている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、医療機関へ支援方法等情報提供、また頻繁に見舞い回復状況を確認し、家族、医療機関、本人と相談しながら早期退院できるよう支援している。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化等、状況変化に応じ家族には早期に報告、本人の意向も確認し医師と相談しながら今後の支援の方針や対応について話し合っている。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度者や終末期の利用者は基本的に対象としていないが、今後、家族、本人の希望があれば医師の協力等得て医療的に対応できるようターミナルケアに取り組んでいきたい。	○	終末期に対する指針を定めて対応できるよう取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の施設へ移行した場合は、ケアプランや日常生活本人の嗜好等支援状況を詳しく伝達している。自宅へ戻られた場合も支援が必要なときは継続した支援ができるよう配慮している。</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の尊厳を傷つけないよう言葉使いや、行動に配慮するよう会議、ミーティング等で職員の意識の向上を図っている。また、個人情報については施設内規則があり、守秘義務が就業規則で定められている。</p>		
<p>48</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>意思表示の困難な場合は筆談や表情から察している。本人がする、しない等は利用者にあわせた説明をし自己決定を促している。</p>		
<p>49</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員側の都合やスケジュールで利用者の生活習慣を崩さないよう個々のペースにそった支援を工夫している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>外泊、外出時は整髪や化粧をし、理美容は馴染みの店や希望をきいて支援している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設の老健の管理栄養士により献立が決められているが、週1回は利用者と相談しながらメニューを決め一緒に調理している。準備、後片付けはできる利用者には手伝ってもらっている。事業所の方針で職員が同じ物を一緒に食べることはしていない。		
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	施設の方針で飲酒はしていない。たばこは喫煙場所を指定し他利用者に迷惑にならないよう配慮している。おやつや飲物は時間をきめて日替わりで提供しているが、特に制限がなければそれ以外でも好きなものを楽しめるようにしている。		
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	習慣や尿意のサインを把握しさりげない誘導を心がけている。オムツはできるだけ使用せず、尿取りパットで対応しトイレでの排泄を支援している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回は利用者の希望の日時を聞き入浴できるようにしている。また、希望があれば随時入浴できるよう対応している。		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調や活動状況、希望に応じて個々に休息できるようにしている。本人の生活習慣にあわせて日中はレクリエーション、散歩など活動を促し生活リズムを安定させ安眠できるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の能力や希望にあわせて、気晴らしにショッピングや掃除、裁縫等役割や楽しみができるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全額自己管理している利用者と、少額のお金は持っているが、事業所で家族から別に預かり管理している利用者がいる。外出時は力量に応じて、お金を所持し買い物は自分で支払いしてもらうように支援している。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭園があり、散歩コースも整備され、車いすの方でも散歩できるようにしている。また、希望時はできるだけ、短時間でも外出できるよう支援している。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の行事には、ドライブや、料理店、祭り、観光施設等に出かけるよう計画したり、墓参りや選挙の投票など希望があれば出かけられるよう支援している。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置いつでも電話できるようにしている。また、部屋に個人で電話を設置している利用者もいる。電話をかけられない利用者には家族、知人へ定期的な電話を依頼し面会にこれなくても会話出来るよう支援している。手紙についても同様に利用者の希望に応じて日常的に支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設けてあるが、その時の状況に応じて柔軟に対応している。面会時は本人とゆっくり過ごせるよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の弊害を理解している。内容については、併設老健の身体拘束廃止マニュアルに準じている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中職員がホールにいる時は玄関に鍵をかけないようにしている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の記録等は、見守りし易い食堂や、居間で行い、夜間は定時で様子や安全を確認し、利用者の所在や状況を把握している。また、プライバシーにも配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々に危険な物品がなにかを把握し、利用者の状況にあわせ対応している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の利用者の状況に応じ、事故の危険性が高い利用者には事故を未然に防ぐ対策を講じ、万が一事故が発生したときは報告書を作成し、原因を検討、再発防止に努めている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルや連絡網があり、職員は定期的に救命講習を受けている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練は消防署の立ち会いのもと日中と夜間を想定した訓練を行い消火器による消火訓練もしている。また、地域の協力を得られるよう運営推進会議でも話している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の状態に応じて、予測されるリスクを把握し対応を家族に説明している。また、変化があったときは随時見直ししている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い記録しているが、早期発見や対応が遅れないよう食欲や、顔色、様子の変化も見逃さないよう取り組み、医療受診につなげている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報などもらい職員全員が薬の内容を把握できるようにしている。また、薬の手渡しと服薬の確認をしている。状態変化があったときは、記録し医師に提供している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、体操を行い運動を働きかけ、食事やおやつ時は乳製品や繊維質の多い食材を工夫し、自然排便できるように取り組んでいる。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの習慣や力に応じて、口腔内の清潔や義歯洗浄、を支援している。また、研修等参加し職員に理解してもらうよう取り組んでいる。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設する老健の厨房で管理栄養士により栄養バランスを考えたメニューと副菜を提供してもらっているし随時アドバイスをもらっている。また、定時でコーヒーやお茶の時間を設け水分補給の確保をしているし、利用者の状態に応じて水分量を調整している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	併設老健の感染症予防マニュアルに準じている。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板、布巾は調理後毎回漂白、消毒をしている。冷蔵庫も点検、掃除し清潔、衛生に気を付けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口にベンチ、プランターを置き玄関には利用者の写真等を飾っている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と相談しながら、飾り付け等おこなっている。廊下には、利用者の書いた絵や習字、外出時や行事の写真等を飾っている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに利用者全員が座れるソファやテレビがある。また、小さいがユニットごとに共用スペースがあり、自由に使ってもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家族には、本人が、使い慣れた馴染みの物を持っ てきてもらうよう協力してもらっている。また、 居室もその人らしく過ごせるよう家具の配置や飾 りなど工夫している。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	空気清浄機が設置してあるが、天気のいい日は窓 をあけ換気している。室温は定時で測り利用者の 状態にあわせて調整している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者の状態にあわせて、車いすや歩行器を使い 活動性が維持できるよう工夫している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	分かりにくい場所には目印等を表示している。ま た、目印は本人の目線にあわせたり、状況に応じ た環境の工夫をしている		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	広大な庭園があり散歩コースを整備している。ま た、玄関先にはベンチを置いて日常的に外出が困 難な利用者も外気浴を楽しめるよう工夫してい る。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設する介護老人保健施設の看護師や、職員にも看護師が配置されている。その他の職員も救命講習を全員が受講していて、急変や災害時にも対応できるようそなえている。ホームの周りは田園で囲まれ環境も静かで、特に敷地内の庭は広大で様々な植物や木が植えられ、四季を通して利用者の楽しみになっている。